
俺が救世主で何が悪い？

黒ペンギン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺が救世主で何が悪い？

【Nコード】

N25310

【作者名】

黒ペンギン

【あらすじ】

故「できればニートになりたい。」

そんな彼の夢は叶いませんでした。

色々な意味でダメな主人公「水無月 故」。

基本的にダメ人間な彼がお送りするのかどうかはさて置いて、そんな彼が異世界の救世主になるんだろうなあ。

こんなのがプロローグで何が悪い？（前書き）

何分拙い文章ではございますが、よければ読んで下さい。

「こんなのがプロローグで何が悪い？」

シリシリシリシリシリ・・・

故「(うるせえな・・・)」

「一応この話の主人公(といって差し支えないのかは疑問)の水無月 故【みなづき ゆえ】

故「そついや今日学校か・・・準備準備」

そつ言つて故は・・・2度寝。

起きた時間は・・・SHR開始5分前・・・

学校にはどう急いだって10分以上かかる・・・

遅刻確定wwww

故「うわ！こんな時間もつと早くに起せよ！！！！！！」

「一体誰に頼んでいるのでしょうか？電波君なのかな？」

故「だあつ！！！！どうすんだよ！！！！」

走れば・・・いいと思ひよっ？

諸事情によりから学校から

言っとくけど面倒臭いからとかじゃないからね)・・・・(

故は結局間に合わず担任教師から説教喰らっていた・・・

先生「コルアアアア水無月！！人の話し聞いとんのか！！」

先生の唾が故の綺麗な顔にかかった。

「おう、コラ先公よ・・・綺麗な故君の顔に唾かけんじゃねえ！」

と、色々な女子からの怒鳴り声が木霊している。そう、この水無月
故という男、なんとも甘いマスクの持ち主なわけだ。

非リアの方々からすればムカつくスペックを持っている。

まあそんなこんなで学校終了〜

イヤだから面倒臭いからとかじゃ（ry

まあそんな故君ですが顔はイケメンで綺麗、髪は銀髪（生まれつきらしい）、プロポーションは細身に見えてガツシリしてて無駄な筋肉が無い。

そんな彼は学校中じゃモテ男。

んで体育館裏にいる訳だけど・・・何でかって？さん野暮ですね〜

告白ですよ！

女A〜K「水無月（故）君私と、付き合ってください！〜！」

故「皆さん・・・すみません、諦めてください」

毎日のように告白される故の女を振るテクニックは凄いものがある

た。

慣れたように十一人の女の子の告白を聞き、それを一度で全員振るといふ事をできるのはそう簡単なことではないだろう。

その後故はあらかじめ体育館に用意していた荷物を持って帰路へと着いた。

俺が異世界へ行って何が悪い？

ここからは基本的に故視点で進みます

故「ふぁゝぁ・・・」

授業中俺は屋上で寝ていた・・・

別に俺はあんなつまらない先生とか言つ偉そうなオッサンやらオバサンやらの話を聞く気はサラサラ無い。

そんな事を考える内に俺は深い眠りに就く・・・

？「・・・ちゃん・・・

ユー・・・

ユーちゃん！」

誰かが俺の耳元で呼んだ。

こんな呼び方をするのはこの世で一人だけ・・・いや、というか逆に俺の事をこんな風に呼ぶ奴は一人しか知らない。

故「恵里・・・何？」

この何処にでもいそうにない可愛い顔をした女は幼なじみの榊
里。

頭もよくて顔も良い。言わば学校中のマドンナ的存在。

恵里「何、じゃないよおー。学校終わっちゃったよ？帰ろうよ・・・」

故「マジッスか？」

つて・・・ガキじゃねーんだから一人で帰れよ！」

恵里「むう〜ケチい〜！」

恵里は頬をプク〜つと膨らませて拗ねていた。

そんなブリっ娘がやれば非常に腹立たしい光景がコイツがやれば何
故こつても可愛く映るのか・・・

故「さっさと帰れよ・・・」

コイツ結構モテるから男子の視線が怖いんだ。もう毎日周囲の人間
からの羨望が痛い。

でも俺はコイツが・・・恵里が好きなのです。幼なじみとしてじ

やなく女性として・・・

だからコイツの喜んでる顔が好きなんですわね、わかります。

だがしかし、現実はその甘くないと俺に嘔きかける。

故「お前彼氏出来たんだろ？」

俺なんかと帰って喧嘩になったら悪い・・・」

嘘だ。ただ惚気を聞きたくないだけで本当は一緒に帰りたいと思っている。

俺、昔はもつと素直な良い子だったんだよ？

自分で言っただけでちょっと恥ずかしい／＼／てへ？

恵里には彼氏ができたという噂がある。

噂は噂だと言う奴もいるだろうがこの情報はほぼ100%に近い情報筋から流れているので間違いはまずない。

恵里「ユーちゃんまでそんな事言っの？」

恵里はそう言って一瞬悲しそうな顔をして屋上から走って出て行った。

俺、何か悪い事言ったっけか？

故「俺も帰るか・・・」

俺は帰り道の途中の河原で不良達に絡まれていた。

いつもの事だからいつも加減したりしてやってるつもりだ。

でも今日は恵里のあんな顔見てしまって胸がモヤモヤしているので手加減などできそうに無きにもあらず・・・みたいな感じですよ

不良A「ゴラ」水無月今日という今日はお前に死んで貰うぜ！！！！」

・・・どの口がそんな言葉をほざきやがりますのですか？

故「失せる・・・今日はお前らの相手してる気分じゃねー。」

不良B「ナメたこと又かしてんじゃねーぞー！ゴラ！！！！」

《ドンドンドン》

頭の中でドアを叩くようなデカイ音がした。

故「何の音？」

不C「音だあ？んなモン何処から聞こえんだよ！？」

《怒ってらっしゃるのですか？》

頭の中で声がする

故「誰！？住居……いや住居じゃないから頭不法侵入だ！！」

俺は空かさずその声に対して聞いた。

不A「誰と話してんだコイツ？」

不B「F「ダハハハハ」

不良達の下品な大笑が辺りに響くが、俺はそれを無視する。

《私は貴方の味方、貴方は私の主……貴方が望むなら私の力を少し分け与えましょう。》

しかし、その力は死ぬまで貴方から離れない。力を捨てたいと願っても遅いのです。》

故「あの、どちらさん？」

いや、まあコイツらちやつちやつと片付けれるのならいただきたい所存でございますが……」

不D「さっさと片付ける!？」

ナメたこと又かしてんじゃねー!」

不良達が殴り掛かってきた。

《後悔はありませんね？まずはこのくらいかな……》

これはほんの一部……覚悟が出来たら全てを与えましょう。そうしたら私以外の方達にも力を貰うことになるでしょうからその時はまた……》

なんかよく分かんねえんだけど……

まあコイツら全部片付けるか

“ヒュオー、ヒュオー”

そう思った瞬間突風が吹き荒れた。

何だ何だ？いきなりその辺のトラックのタイヤくらいなら凄い勢いで飛びそうな突風が・・・

不良たちが宙を舞う・・・ちよwwwwwwシユールwwwwww
wwwwwwwwえ、ちよつと待とうよwwwwww
面白くなってきたじゃないかwwwwww

ただ、ここからどうしろと？

？「イケない！」

“バツ！！”

誰かが俺に飛びついた後、俺は周りに何も無い真っ白な場所にいた。

・

いや、俺のすぐ後ろに人が立っているから何も無くはないか。

ローブに包まれて顔が見えないため性別は分からない・・・

だが背は平均的な男性よりも相当低く声が高いのでチビか女性だろうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2531o/>

俺が救世主で何が悪い？

2010年10月11日15時34分発行